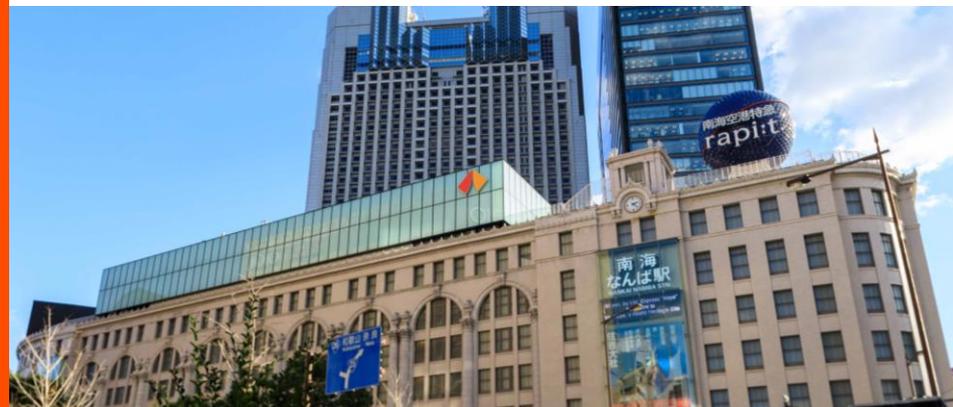


個人投資家さま向け 会社説明会

2023年11月29日

南海電気鉄道株式会社

(東証プライム市場 9044)



‘なんかいいね’があふれてる
 **NANKAI**

目次

I. 会社概要	2
II. 業績の概要	14
III. 経営計画	21
IV. 中期経営計画の取り組み状況	28
V. サステナブル経営の取り組み	44
VI. 当社株式について	50

I. 会社概要

会社概要(2023年3月末時点)

- 日本最初の純民間資本による鉄道会社として創業

社名	南海電気鉄道株式会社
創業	明治18年(1885年)12月27日
代表取締役会長	遠北 光彦(あちきた てるひこ)
代表取締役社長	岡嶋 信行(おかじま のぶゆき)
事業内容	運輸業、不動産業、流通業、 レジャー・サービス業、建設業、その他の事業
従業員数	連結:8,905人 単体:2,635人
資本金	729億8,365万円
株主構成	個人49.5%、金融機関31.2%、外国法人等11.3%他
上場証券取引所	東証プライム(証券コード:9044)
単元株	100株

‘なんかいね’があふれてる

なんばエリアの特徴

立地の魅力

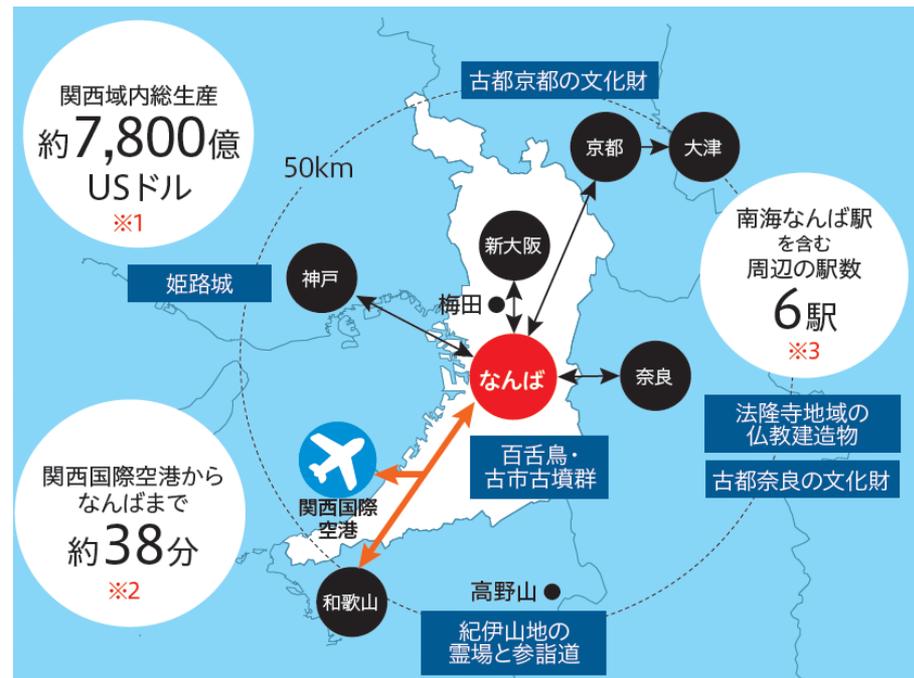
- 関西国際空港から特急ラピートで約38分
- なんばから関西各地へのアクセス充実

まちの魅力

- 道頓堀などの観光資源が豊富
 - 大阪らしいカルチャーの発信地
 - 国内外問わず多くの方が来訪
- 商業施設やエンターテインメント文化の中心



近年では、利便性や快適性から、
オフィス、居住地としても注目



- ※1 出典：大阪市ホームページ、2018年度データ、
関西は京都府・大阪府・滋賀県・兵庫県・奈良県・和歌山県の2府4県
- ※2 当社特急ラピート利用(当社調べ)
- ※3 駅数には近畿日本鉄道・阪神電気鉄道、Osaka Metro、JR線を含む

事業セグメント

- 多彩な事業展開によって、沿線価値向上、安定的な収益基盤を確立

鉄道、軌道、バス、海運、貨物運送、車両整備



特急「ラビート」



リムジンバス

不動産賃貸、不動産販売



南海ビル(高島屋大阪店)、
スイスホテル南海大阪、なんばスカイオ



パークスタワー

運輸業

不動産業

流通業

レジャー・
サービス業

建設業

その他の事業

ショッピングセンターの経営、駅ビジネス、その他



なんばパークス



なんばCITY

旅行、ホテル・旅館、ボートレース施設賃貸 ビル管理メンテナンス、葬祭 その他



BOAT RACE 住之江



碧き島の宿 熊野別邸 中の島

‘なんかいね’があふれてる

運輸業

- 事業の中核として、南海電鉄や泉北高速鉄道が提供する鉄道事業をはじめ、軌道、バス、海運などの公共交通サービスを提供



不動産業

- オフィスビル、百貨店、物流施設など多様な不動産賃貸業を展開するとともに、戸建・マンション販売などの不動産販売業を幅広く展開



流通業

- 沿線を中心に高感度なショッピングセンターを経営すると同時に、駅ビジネス事業の展開にも取り組む

なんばCITY



レジャー・サービス業

- 旅行業、ホテル・旅館業、ボートレース施設賃貸業、ビル管理メンテナンス業、葬祭事業など、お客さまの暮らしに潤いを提供する事業を沿線内外で展開

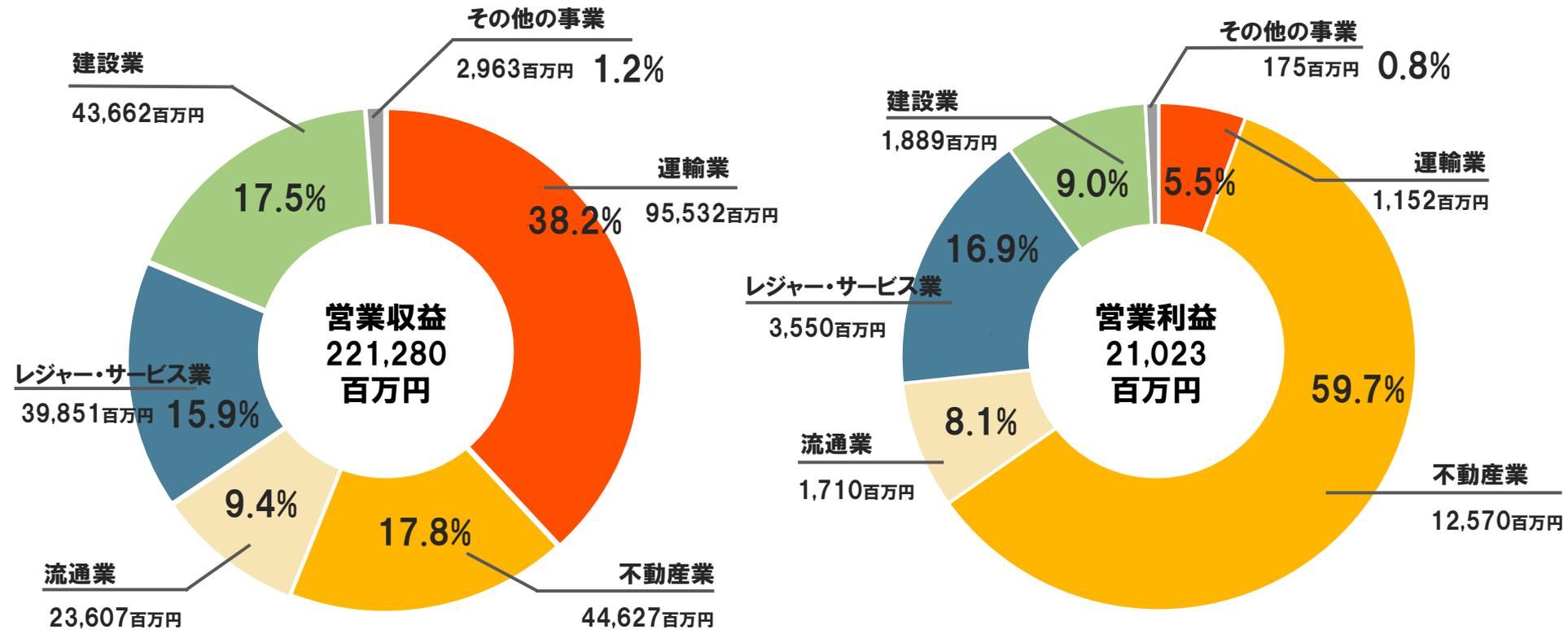


建設業

- 上場子会社「南海辰村建設株式会社」が土木工事、建築工事、電気工事など総合建設業を営む



セグメント別 営業収益・営業利益構成比(2022年度)



※構成比はセグメント間取引を含む営業収益および営業利益に対する比率

南海グループの3つの強み

強み 1

ポテンシャルを秘めた
沿線資源

「国際性と先進性」を備えたまちから「歴史遺産」まで

- 国際都市・なんばを起点に歴史のあるエリアを路線でつなぐ
(関西国際空港、高野山、和歌山市、百舌鳥・古市古墳群など)
- 2031年なにわ筋線開業(予定)



強み 2

まちの魅力を
創る力

時代の変化や人々の価値観の変化に合ったまちづくりでリード

- 沿線エリアのまちづくりと活性化
(オフィスビル、マンション、住宅開発、ショッピングセンターの運営など)
- 「なんば」エリアの活性化を目指す:グレーターなんば構想



強み 3

新しいサービスを
創る力

前例にとらわれない斬新な発想で未来のサービスを描く

- デジタルテクノロジーを活用した新たな商品・サービスの創出
(南海アプリなど)
- 生活を便利にするサービスの提供



‘なんかいね’があふれてる

II. 業績の概要

2023年度第2四半期 業績ハイライト

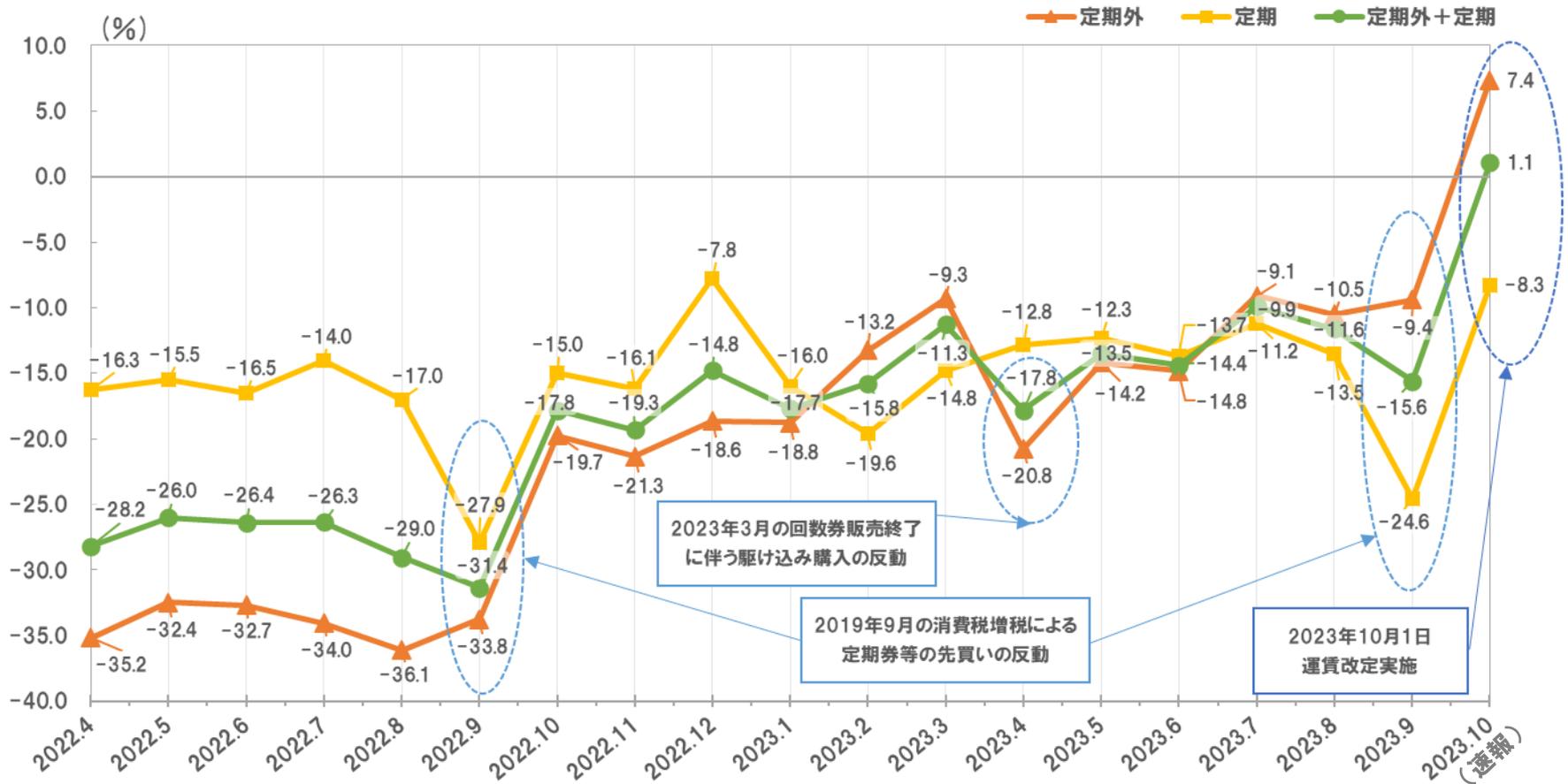
- 運輸業における輸送人員の増加や不動産業におけるマンション販売の増加等により増収増益

(単位:億円)

	2023/2Q 実績 (A)	2022/2Q 実績 (B)	増減額 (A-B)	増減率
営業収益	1,176	1,082	94	8.7%
営業利益	142	94	47	50.7%
経常利益	132	82	50	61.5%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	88	71	17	24.6%

鉄道旅客収入の推移(全線) 2019年同月比増減率の推移

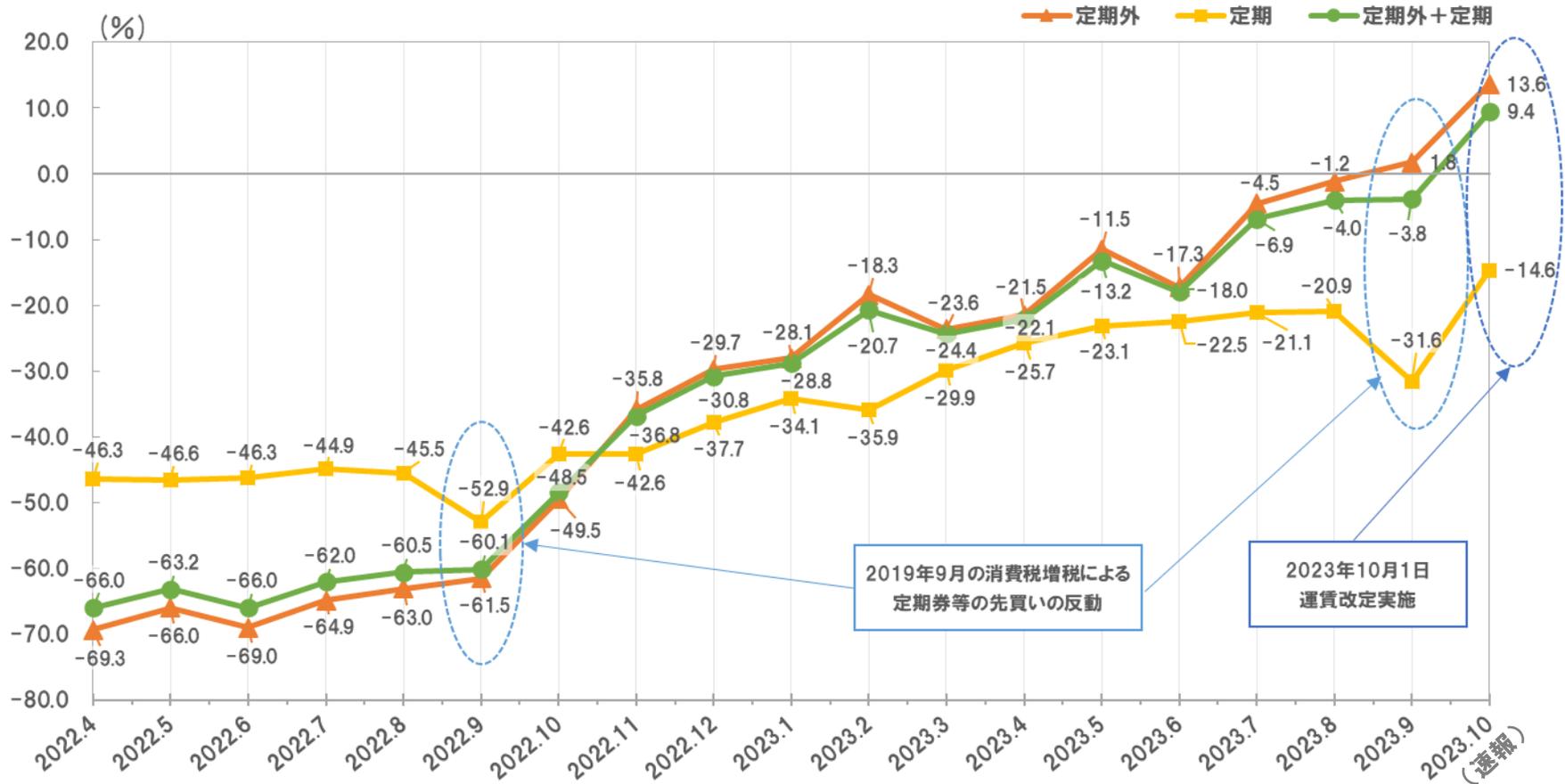
- 新型コロナウイルスの水際対策緩和、5類移行など社会・経済活動の正常化により輸送需要は順調に回復、運賃改定効果もあって、コロナ禍前の水準までほぼ回復



※ 2021年4月以降、「収益認識に関する会計基準」等を適用しておりますが、影響額を調整せず単純比較で増減率を算出しております。

鉄道旅客収入の推移(空港線) 2019年同月比増減率の推移

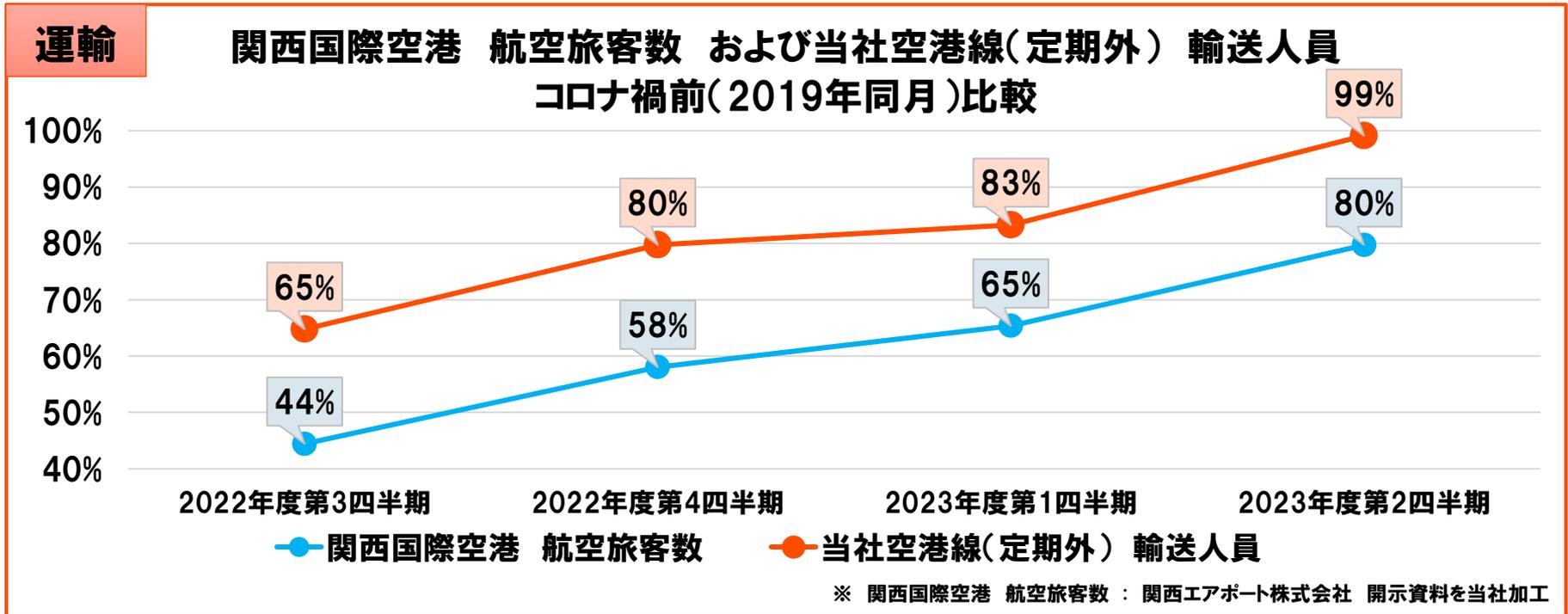
- 新型コロナウイルスの水際対策の緩和があった2022年10月以降、急回復
- 韓国をはじめとしたインバウンド需要が牽引し、コロナ禍前の水準を上回る



※ 2021年4月以降、「収益認識に関する会計基準」等を適用しておりますが、影響額を調整せず単純比較で増減率を算出しております。

インバウンド需要の回復

- インバウンド需要の回復が堅調、関空の航空旅客数を上回るペースで需要増加



不動産

フレイザーレジデンス南海大阪 稼働率
2019年度上期:約83%
→ 2023年度上期:約88%

流通

なんばパークス 免税売上比率
2019年度上期:約5%
→ 2023年度上期:約8%

業績推移

- コロナ禍で2020年度以降、業績は一時的に落ち込むものの、直近は急回復

(単位:億円)

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度 (A)	2023 年度予想 (B)	増減額 (B-A)
営業収益	2,280	1,908	2,017	2,212	2,480	267
営業利益	352	55	121	210	272	61
経常利益	316	18	99	189	254	64
親会社株主に帰属する 当期純利益	208	△ 18	40	146	218	71
有利子負債残高	4,679	5,064	4,824	4,745	4,386	△359
純有利子負債残高/ EBITDA倍率	6.9倍	13.0倍	10.7倍	8.8倍	7.4倍	△1.4pt

‘なんかいいね’があふれてる

長期業績推移

- 2023年度の営業収益はコロナ禍前の水準を超える見込み(※)

- 営業利益も順調に回復

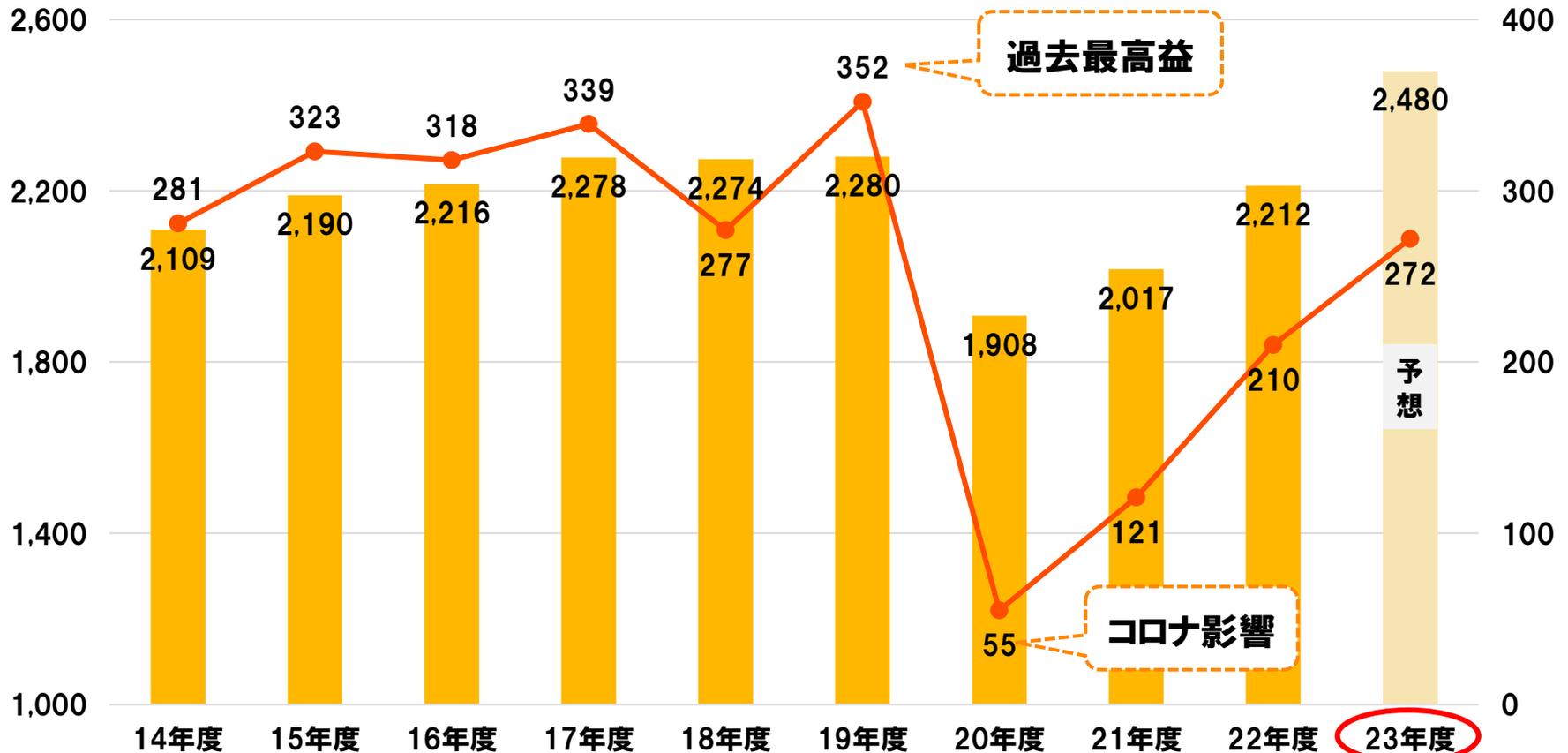
※ 2021年度より「収益認識に関する会計基準」等を適用

【営業収益・営業利益の推移(億円)】

(左軸) 営業収益、(右軸) 営業利益

■ 営業収益

● 営業利益



III. 経営計画

～2050年の企業像、南海グループ経営ビジョン2027、共創140計画～



サステナブル経営：南海が描く“2050年の企業像”

地域共生・共創 多様な暮らし方

地域の人々とともに

地域密着を旗印に、地域・沿線の人々とのつながりを大切に保ち、多種多様な人々が幸せに暮らせる多彩な“まち”を、地元と一体となって創っていく。

モビリティ

公共交通事業者としての使命

これまで沿線で培ってきた安全・安心の運輸事業の歴史とその責任を、“人と人”、“まちとまち”、そして“人とまち”をつなぐ多様なモビリティ事業への深化で具現化し、未来につなげていく。

沿線への誇りを礎に、

関西にダイバーシティ^(※)を築く

事業家集団

多様性・グローバル

“Think Globally, Act Locally”

関空という世界(アジア)とつながる玄関口、そして“なんば”という多彩なまち…、これからも世界から多様な人々が集うこの地に寄り添いながら、互いの価値観や個性を認め、高めあえる多様性を育てていく。

南海らしさ

“みらい”を自ら切り拓く強い意志

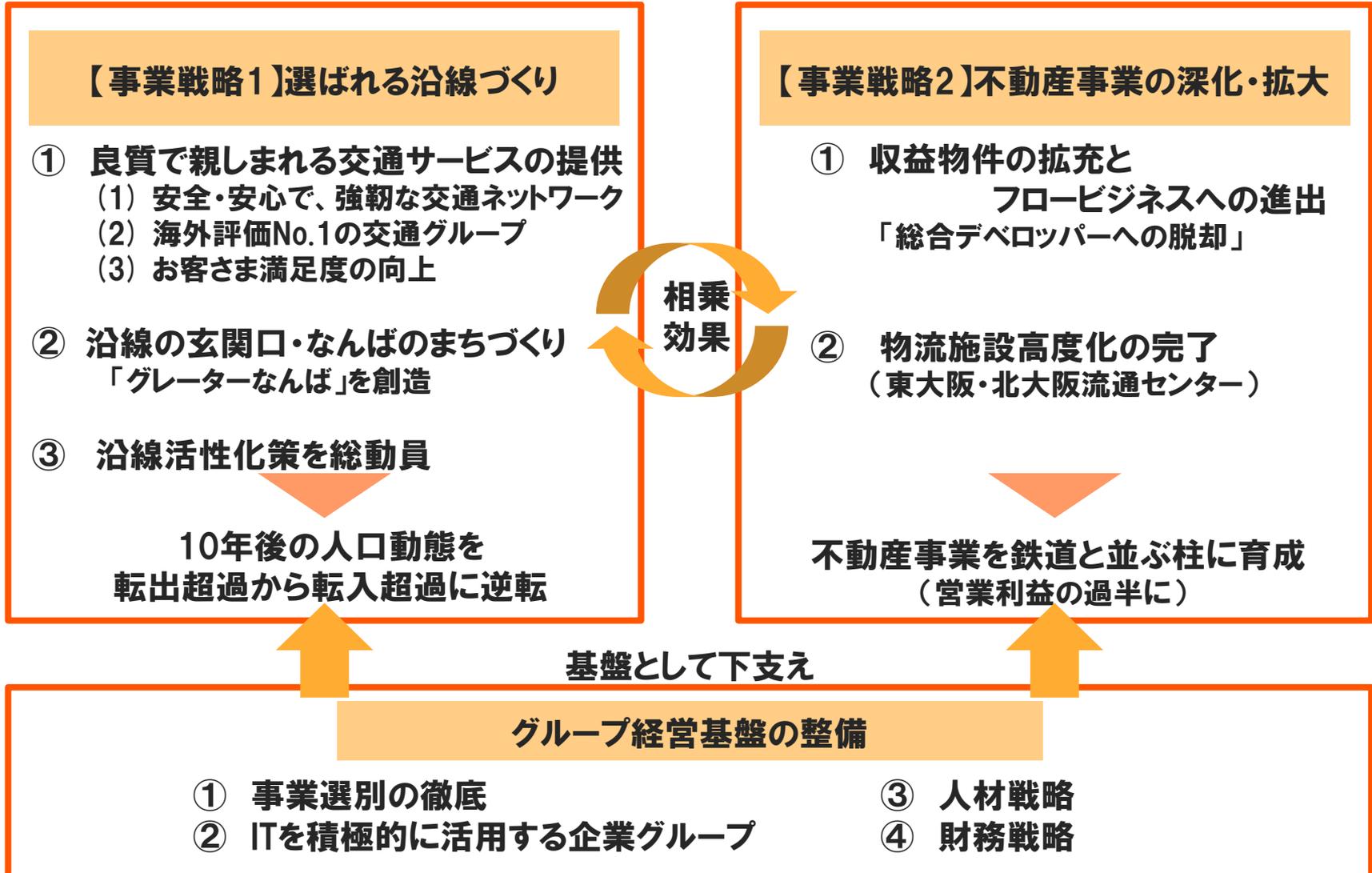
創業からの長い歴史、その道筋で築いてきた南海グループの文化とアイデンティティ、そしてこの先の新たなロードマップ。私たちは、社会の一員としての使命と責任を胸に、新しいことに“挑戦し”、“やりきる”事業家集団となり、南海の“みらい”を切り拓いていく。

(※) **ダイバーシティ**：

「多様性」に代表される“Diversity”と、「多様性あふれる街」を意味する“Diverse City”=“DiverCity”(造語)の2つの想いを表現している

‘なんかいね’があふれてる

南海グループ経営ビジョン2027：事業戦略骨子



中期経営計画「共創140計画」の位置づけ

基本方針

コロナ禍を経ての「再構築」と「成長への基礎構築」を行う期間

- あらゆるステークホルダーとの“**共創の精神**”は不変
- なにわ筋線開業に向けたコア事業の戦略投資を確実に実行
- 未来に向けての成長の基礎を3年間で構築
 - 「安全・更新」投資は、3年間で加速させ確実に実行
 - 「南海グループ経営ビジョン2027」での2つの事業戦略の実行を加速
 - 新たな事業の芽の育成にも十分な投資枠を確保

経営戦略

- 公共交通事業のサステナブルな経営
- 選ばれる沿線づくりと不動産事業深化・拡大
- 未来への取組み(未来探索)
- 上記を支える、人事/財務戦略推進

2050年

南海の未来
(企業像)

なにわ筋線
開業

南海グループ
経営ビジョン
2027

満足と感動の提供を通じて、
選ばれる沿線、選ばれる企業グループとなる

深展133計画
(2015～2017年度)

共創136計画
(2018～2020年度)

2021年度
経営計画

共創140計画
(2022～2024年度)

次期中期
経営計画
(2025年度～)

‘なんかいね’があふれてる

「共創140計画」の主な事業戦略

1. 公共交通事業の持続可能な経営 [設備投資:520億円]



- ・ 安全対策・災害対策の計画的な推進
- ・ デジタルテクノロジー活用:新しい技術・枠組みの構築と予防保全の充実
- ・ 収益力の強化、ブランド・サービスの向上
- ・ 新たなサービス - 総合モビリティ事業への進化

2. 選ばれる沿線づくりと不動産事業深化・拡大 [設備投資:930億円]



- ・ 地域共創型まちづくり
- ・ “グレーターなんば”構想の加速 - “アジアのなんば”へ
- ・ 泉北ニュータウンの持続可能なまちづくり
- ・ 物流施設の高度化
- ・ 私募リート設立

3. 未来探索 [設備投資:150億円]



- ・ DX戦略 - デジタル顧客接点の構築と新価値創造
- ・ 新規事業への取組み加速
- ・ 外国人との共生
- ・ ツーリズム関連事業の強化
- ・ ニューノーマルでの新たなサービス提供

数値目標

- 営業利益・純有利子負債残高/EBITDA倍率をともに改善させ、将来の成長に向けた財務基盤の整備に取り組む
- CO2排出量についても、2030年度に向けて計画的に削減を図る

計画の最終年度にあたる2024年度の数値目標(連結ベース)は以下のとおり

営業利益 ^{※1}	280億円
純有利子負債残高/EBITDA倍率 ^{※2}	7.5倍以下

※1 営業利益+受取配当金

※2 営業利益+受取配当金+減価償却費

<参考>

設備投資額(3か年総額)	1,600億円
CO2排出量削減(2024年度)	2013年度比32%減

(参考)設備投資：3か年 1,600億円の内容

- 事業戦略骨子に沿い、適切な投資枠を確保
- 「持続的な企業価値の向上」と「持続可能な社会の実現」の両立を目指し、一定の投資額を“サステナブル投資”に振り向ける

1. 公共交通事業のサステナブルな経営

520億円：

- ・ サステナブルな交通ネットワーク維持のため、計画的な安全投資および更新投資を実施する

2. 選ばれる沿線づくりと不動産事業深化・拡大

930億円：

- ・ REITにより開発資金を確保しつつ、なんばエリアや泉ヶ丘エリア、物流施設の高度化等に集中投資する

3. 未来探索

150億円：

- ・ 鉄道と不動産に続く第3の柱構築に向けて、中長期的な目線で予算を配分する

うち サステナブル投資(※)

- ・ **災害対策投資:50億円**
激甚化する災害への備え・予防対策
 - ・ **DX推進投資:90億円**
データ・デジタル技術を駆使した、新たな価値・働き方の創出
 - ・ **CO2削減投資:190億円**
地球温暖化の緩和および脱炭素社会への移行の機会活用
 - ・ **ブランド向上投資:160億円**
商品・サービス・コーポレート・地域のブランド向上
 - ・ **多様性向上投資:40億円**
多様な従業員の働きやすさ向上
- **合計:460億円**(一部重複項目あり)

※サステナブル経営に掲げるマテリアリティ実現に向けた主な投資

IV. 中期経営計画の取り組み状況

事業戦略：1. 公共交通事業の持続可能な経営

- 安全安心とサービス品質の向上を基に、総合モビリティ事業への進化を

- ④ 新たなサービス
(ラストワンマイル)



- ① 安全対策・
災害対策の
計画的推進



- ③ 収益力の強化、
ブランド・サービス
の向上

総合モビリティ
事業への進化

公共交通事業の
持続可能な経営

- ② デジタル
テクノロジー活用：
新たな技術・枠組みの
構築と予防保全の充実



地域一体となって、鉄道・バス等、各交通モードが有する
輸送特性を活かした地域公共交通のあり方を検討する

ブランド・サービスの向上①

◆ 通勤車両の新造・更新

- 多言語対応の液晶モニタ設置、車いすスペース確保によるバリアフリー対応、CO2排出量削減による省エネ対応等、「人と環境にやさしい車両」への置き換えを加速化



◆ 新たな観光特急車両の導入

- 2025年度を目標に新たな観光特急車両の導入を計画
- 高野山へのアクセス手段としてだけでなく、“乗車すること”を目的化していただけるサービスの提供を追求



◆ 自動運転実証試験

- 自動化レベルGOA2.5(前頭運転台に運転士以外の係員が乗務)による自動運転化を実現させるべく、2023年8月より、和歌山港線において試運転車両を用いた実証試験を開始



ブランド・サービスの向上②

- 足元では空港線の輸送人員(定期外)はコロナ禍前の水準まで回復、ダイヤ変更の実施によって輸送力を強化
- クレジットカードのタッチ決済やQR乗車券は実証実験を経てサービスを本格展開、大阪・関西万博を見据え、全駅での導入を目指す

◆空港線輸送力強化

- 2023年10月21日より特急ラピートを増便、空港急行の編成車両数を見直し
- 輸送力をコロナ禍前(2019年)と同水準まで強化し需要増加に対応



‘なんかいね’があふれてる



◆タッチ決済・QR乗車券のサービス展開

- タッチ決済は2023年4月にはカードブランドを拡大し、現在5ブランドが利用可能
- QR乗車券は「南海デジタルきっぷ」としてラピートデジタルきっぷなど各種企画乗車券を発売
- 2025年開催予定の大阪・関西万博に向けてエリアを順次拡大し、観光客・インバウンド旅客などお客さまの利便性向上を図る



タッチ決済



南海デジタルきっぷ

収益力の強化に向けて

- 2023年10月の鉄道線旅客運賃の改定(平均改定率10.0%)と合わせた空港アクセス関連の企画乗車券の見直しなどにより、増収を図る
- 当社グループのバス、フェリーにおいても運賃を改定し、需要減、コスト高へ対応

◆運賃改定

- 鉄道をはじめ、当社グループのバス、フェリーにおいて運賃改定を実施(2023年10月1日～)
- 他の当社グループバス会社においても運賃改定を検討中

事業	会社	改定内容
鉄道	南海電気鉄道 泉北高速鉄道	平均改定率10.0% 初乗り運賃 160円→180円 ※南海電気鉄道
	徳島バス	高速バス:200円～500円の 運賃値上げ
バス	南海りんかんバス	路線バス:平均19.6%値上げ
	熊野御坊南海バス	路線バス:那智山線一部区間 の運賃値上げ
フェリー	南海フェリー	運賃値上げ 大人片道2,200円→2,500円

◆企画乗車券の見直し

- 鉄道線旅客運賃の改定と合わせてインバウンド向け企画乗車券の割引率や商品体系の見直しを実施
- 2023年度下半期で約1.4億円※の増収効果を見込む
※鉄道線旅客運賃の改定による増収分を除く

インバウンド向け企画乗車券の見直し		
～9月30日 (販売終了)	Rapi:t Economy Ticket (特急ラピート片道割引乗車券)	1,100円 (▲24.1%)
	NAMBA Access Rapi:t Ticket (特急ラピート往復割引乗車券)	2,150円 (▲25.9%)



10月1日～ (販売開始)	Rapi:t One-way Ticket (特急ラピート片道割引乗車券)	1,350円 (▲9.4%)
------------------	--	-------------------



※ カッコ内は割引率

事業戦略：2. 選ばれる沿線づくりと不動産事業深化・拡大

- 新たな打ち手も加え、未来に向けた“なんば”と“沿線”のまちづくりを加速

④ 物流施設の高度化



① 地域共創型まちづくり



地域共生・共創、
多様な暮らしの
創造

選ばれる沿線づくり
と不動産事業
深化・拡大

③ 泉北ニュータウンの サステナブルな まちづくり



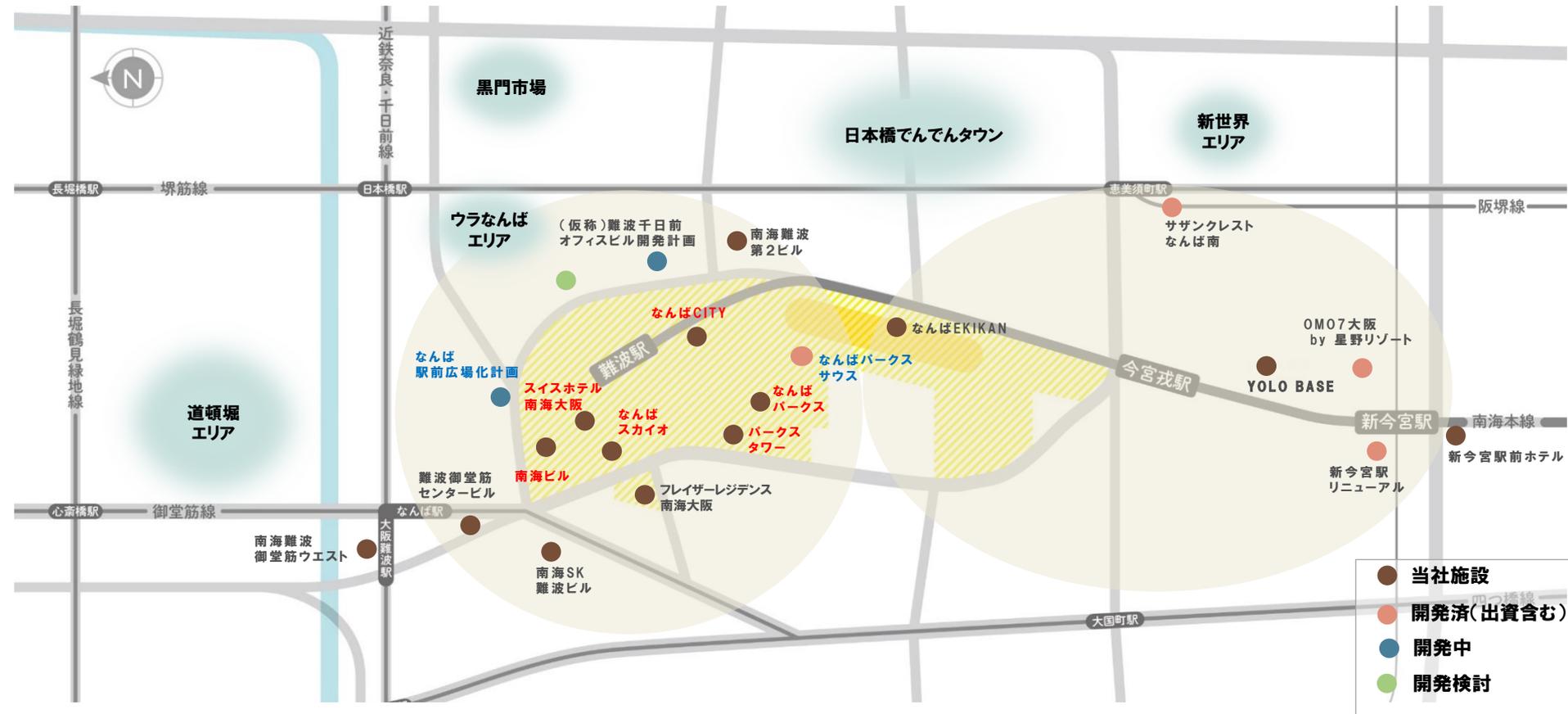
② “グレーターなんば” 構想の加速 （“アジアのなんば”へ）



⑤ まちづくりの推進・加速のため、私募リートを設定

“グレーターなんば”エリア 主な当社施設(MAP)

- 事業基盤である「なんば」の価値向上に向けた大規模開発・ターミナル再生
- 従来のなんばを超えた「グレーターなんば」を創造



‘なんかいいいね’があふれてる

南海なんば駅近接の主な所有物件

● 南海なんば駅に近接して大型の不動産賃貸物件を複数保有



なんばパークス パークスタワー

- ・竣工年:2003年
- ・賃貸面積:
(なんばパークス) 約51,800㎡
(パークスタワー) 36,500㎡
- ・用途:商業施設
オフィス、店舗

【特徴】

- ・大規模屋上庭園
「パークスガーデン」隣接
- ・人、都市、自然の融合を目指す



なんばCITY

- ・竣工年:1978年
- ・賃貸面積:約33,200㎡
- ・用途:商業施設

【特徴】

- ・都心型ターミナルSC
- ・なんばエリアの人流のハブ機能を担う



なんばスカイオ

- ・竣工年:2018年
- ・賃貸面積:45,927㎡
- ・用途:オフィス、医療施設、
商業サービス施設ほか

【特徴】

- ・国内外のヒト、モノ、コトが
行き交う国際交流の拠点



南海ビル

- ・竣工年:1932年
- ・賃貸面積:49,827㎡
- ・用途:高島屋大阪店
店舗

【特徴】

- ・駅のコンコースと一体化
- ・国の登録有形文化財に
指定されている伝統のある建築物
- ・高島屋の基幹店である大阪店が主要テナント



スイスホテル南海大阪

- ・竣工年:1990年
- ・賃貸面積:61,557㎡
- ・用途:ホテル

【特徴】

- ・1990年に当社直営の
「南海サウスタワーホテル
大阪」として開業
- ・2003年より「スイスホテル
南海大阪」として賃貸
スキームに変更

グレーターなんば構想の加速(なんば駅前広場整備)

- なんば駅周辺を人中心の空間へ「なんば広場」は広場部分先行供用開始、なんさん通りの整備後、全体完成は2025年3月予定
- 当社は「なんば広場マネジメント法人設立準備委員会」の一員として、地域の回遊性向上やミナミのエリア価値向上に資するイベント等を誘致し、賑わいを創出

※「なんば広場」：社会実験中の仮称

コンセプト

大阪のおもてなし玄関口



昼間パース



夜間パース

「なんば広場」先行供用・社会実験開始
2023年11月23日

目指す姿

人のまちミナミの中心として、
居心地よく安心感のある空間

ミナミ・大阪・関西を回遊するための
魅力・情報の発信拠点

安全・安心な空間の創出



なんさん通り(完成イメージ)

なんさん通り(南北)を含む
「なんば広場」全体供用開始
2025年3月(予定)

‘なんかいね’があふれてる



出典元：
大阪市ホームページ
なんば駅周辺における空間再編推進事業整備プラン

グレーターなんば構想の加速(なんばパークス サウスの開業)

- なんばエリアのさらなる魅力向上のため、観光やビジネスの新たな拠点を構える
- なんば駅以南の賑わいを創出



‘なんかいね’があふれてる

大成建設株式会社 ご提供



	センタラグランド ホテル大阪	パークス サウス スクエア	ホテル京阪 なんばグランデ
	A敷地	B敷地	C敷地
用途	ホテル、店舗	オフィス、店舗、駐車場	ホテル、店舗
敷地面積	4,404㎡	2,506㎡	2,005㎡
延床面積	38,128㎡	19,683㎡	9,377㎡
構造・階数	SRC造・地上34階	S造・地上14階	S造・地上9階
開業	2023年7月1日	2023年7月1日	2023年3月25日
当社の 関与方	・サブリース (土地の転賃)	・SPCへの出資 ・開発業務の受託 ・サブリース (土地の転賃)	・建物の建設 ・ホテル事業者への 賃貸 (共同事業)

●ペDESTリアンデッキ整備



大成建設株式会社 ご提供

●くら寿司グローバル旗艦店オープン



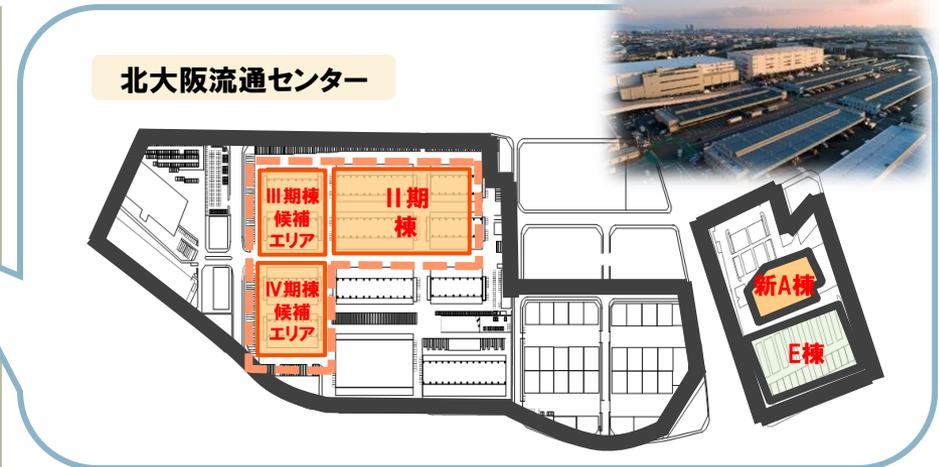
くら寿司株式会社 ご提供

物流施設の高度化(物流施設の概要)

- グループ会社の泉北高速鉄道が、好立地に2つの物流ターミナルを保有

3つの強み

- ①大阪都心および高速道路のインターチェンジに近接→効率的な輸送が可能
- ②内陸部に立地→津波等の災害の影響を受けにくい
- ③広い敷地を確保→トラックターミナルを中心に流通倉庫、配送センターが立地



施設概要(2022年度末時点)

	北大阪流通センター	東大阪流通センター
敷地面積	約292,000㎡	約227,000㎡
賃貸面積	約337,169㎡	約129,132㎡

物流施設の高度化(北大阪トラックターミナル第II期棟)

- 当施設内で最大規模のII期棟について高度化計画を具現化
- 免震構造の採用でBCP対応を強化、幅広いテナントのニーズに対応

◆ 北大阪トラックターミナル第II期棟

用途	配送センター・トラックターミナル
敷地面積	56,579㎡
延床面積	193,642㎡
構造・階数	免震構造、ダブルランプウェイ方式 地上6階建
事業費	約350億円(予定)
竣工	2026年3月(予定)



物流施設の高度化に関する全体スケジュール

※現時点の計画



事業戦略：3. 未来探索

- 南海が目指す未来へ、新たな柱の創造を具体化し加速
- DX戦略を具現化、デジタル化加速から沿線の“地域サポート・ポータル”へ

① DX戦略で全ての
取組みを加速

② 新規事業への
取組み加速

⑤ ニューノーマルでの
新たなサービス提供

Lieffice



中長期的な
グループ経営基盤
の強化

未来探索



当社新規事業プログラム
I期3事業



④ ツーリズム関連事業の強化



③ 外国人との共生

Japal



‘なんかいね’があふれてる

eスポーツ事業に関する取り組み

当社がeスポーツに参入する意義

- 当社の企業ブランド力をもって事業を推進することにより、eスポーツ業界の健全な発展を牽引
→ eスポーツの認知度や社会的地位の向上
- Z世代と直接的かつ強固なコネクションの構築
- 他者(自治体・企業・教育関係など)との共創により、事業収益の獲得、地域の活性化を実現

◆現在

官民連携型としてeスポーツ施設や大会・イベントの運営事業を手掛ける



◆今後

eスポーツ市場におけるポジショニングを確立し、
新たな自治体や民間企業との協業によりビジネスモデルの進化を図る

【eスポーツキャンプ2023 Summer】



- ・ 大阪府泉佐野市主催で昨年に引き続き2年連続の開催
- ・ 北海道から福岡までの高校生39名が参加
- ・ 保護者、行政、企業に向けた講演も実施し、今後のアライアンス創出につなげる

‘なんかいいね’があふれる



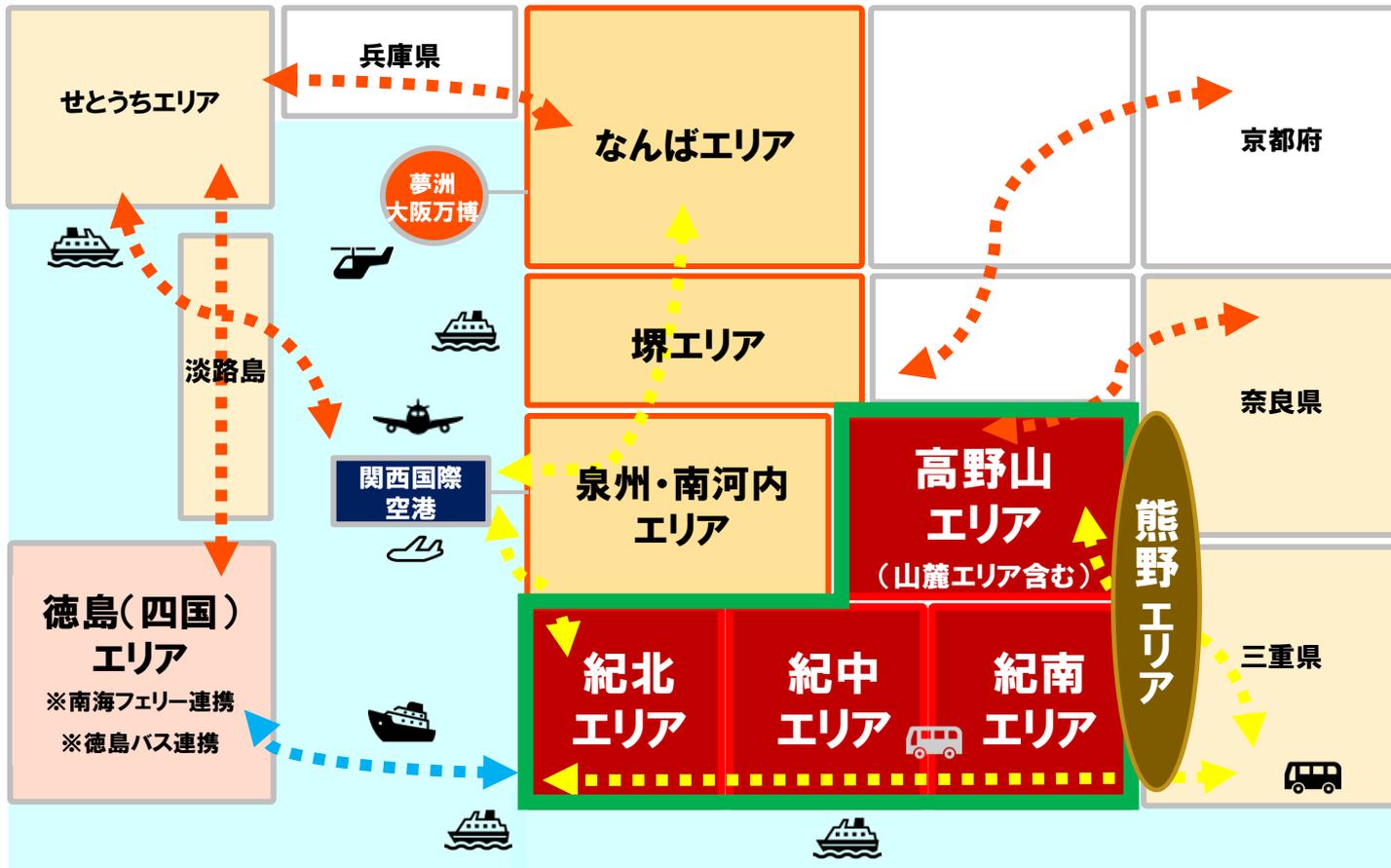
【eスタジアム なんば本店】



- ・ 2023年9月になんばスカイオからなんばパークスへ移転
- ・ eスタジアムの基幹店としてエリアを拡張し、自治体や企業との協業に資する空間を設置

ツーリズム戦略の方向性(エリア・ソリューション)

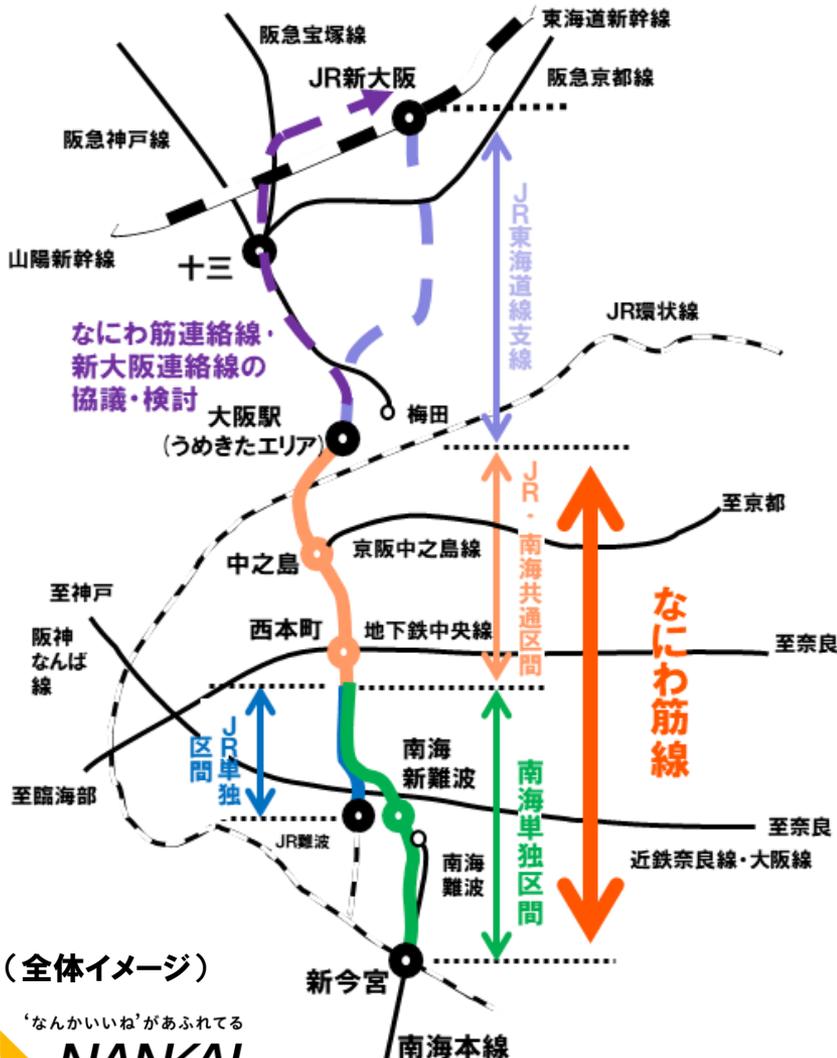
- 当社沿線と関連事業のエリアでもある和歌山県に重点を置きつつ、関西国際空港をフックに、西はせとうち・四国から東は奈良、三重も含めた広域的なエリアにおいて、他社との連携・共創を前提にヒトの移動を起こすツーリズムの流れを構築



‘なんかいね’があふれてる

なにわ筋線計画について

- 2021年度下期より、本格的な工事に着手し、準備工事を推進中



整備区間	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪駅(うめきたエリア) ～(仮称)西本町駅～南海新今宮駅 ・大阪駅(うめきたエリア) ～(仮称)西本町駅～JR難波駅
中間駅	(仮称)中之島駅、(仮称)西本町駅、(仮称)南海新難波駅
総事業費	約3,300億円(概算) うち 地方自治体出資 約330億円 (大阪府165億円、大阪市165億円) 民間出資 約330億円 (南海電鉄185億円、JR西日本145億円)
整備主体	関西高速鉄道株式会社
営業主体 及び 営業区間	南海電気鉄道株式会社 営業区間:大阪駅(うめきたエリア) ～南海新今宮駅 西日本旅客鉄道株式会社(JR西日本) 営業区間:大阪駅(うめきたエリア) ～JR難波駅
開業目標	2031年春

V. サステナブル経営の取り組み

サステナビリティ方針ならびにサステナブル重要テーマ

サステナビリティ方針(2021年4月制定)

基本的な考え方

沿線エリアを中心に、地域住民・自治体・企業等、さまざまなステークホルダーと共創・協働し、企業理念の実践を通じて、「持続的な企業価値の向上」と「持続可能な社会の実現」の両立をめざします。

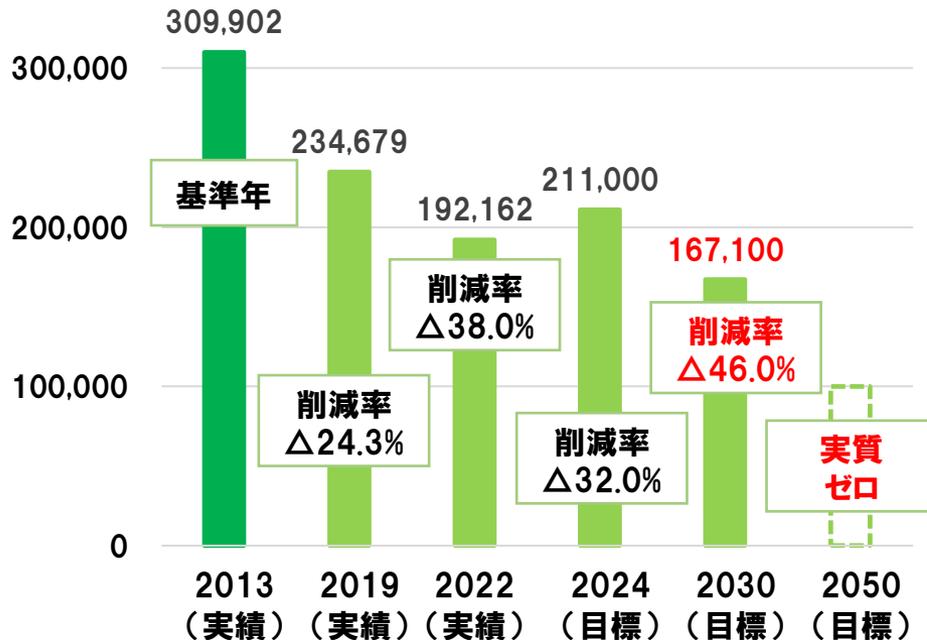
サステナブル重要テーマ(マテリアリティ)

安全・安心・満足のさらなる追求	  	一人ひとりが能力を発揮できる職場・ひとづくり	    
賑わいと親しみのあるまちづくり	   	地球環境保全への貢献	       
夢があふれる未来づくり	   	誠実で公正な企業基盤強化	   
豊かな暮らしの実現	    		

当社グループのCO2排出量削減に向けた取り組み

CO2排出量の削減

当社グループにおける排出量を
2013年度比46%以上削減(2030年度)
＜2050年のCO2排出量実質ゼロ＞



実施施策

■省エネ車両の導入

2022年度省エネ車両導入割合63.2%
(省エネ車両508両、全車両804両)



※南海電鉄および泉北高速鉄道

8300系車両

■燃料電池バスの導入



南海バス



徳島バス

■再生可能エネルギーの活用



淡輪太陽光発電所



鋼索線(高野山ケーブルカー)

統合報告書の発行

南海グループ 統合報告書 2023の発行

- 当社グループの価値創造を「2050年の企業像」の実現と捉え、その実現に向けた「成長戦略の着実な実践」と「変革を支えるサステナブル経営」を中核コンテンツに構成（2023年10月2日より、当社HPにて公開）
- 昨年秋に発行の「統合報告書2022」では高い評価を頂いた
 - 「日経統合報告書アワード2022」にて「優秀賞」を獲得
 - GPIFの国内株式運用機関が選ぶ「改善度の高い統合報告書」に選定



詳細は[こちら](#)をご参照ください

本日のポイント

大阪を代表するターミナル「なんば」を事業拠点とし、
南大阪・和歌山エリアで多角的に事業を展開。
運輸・不動産を中心に安定した事業構成。

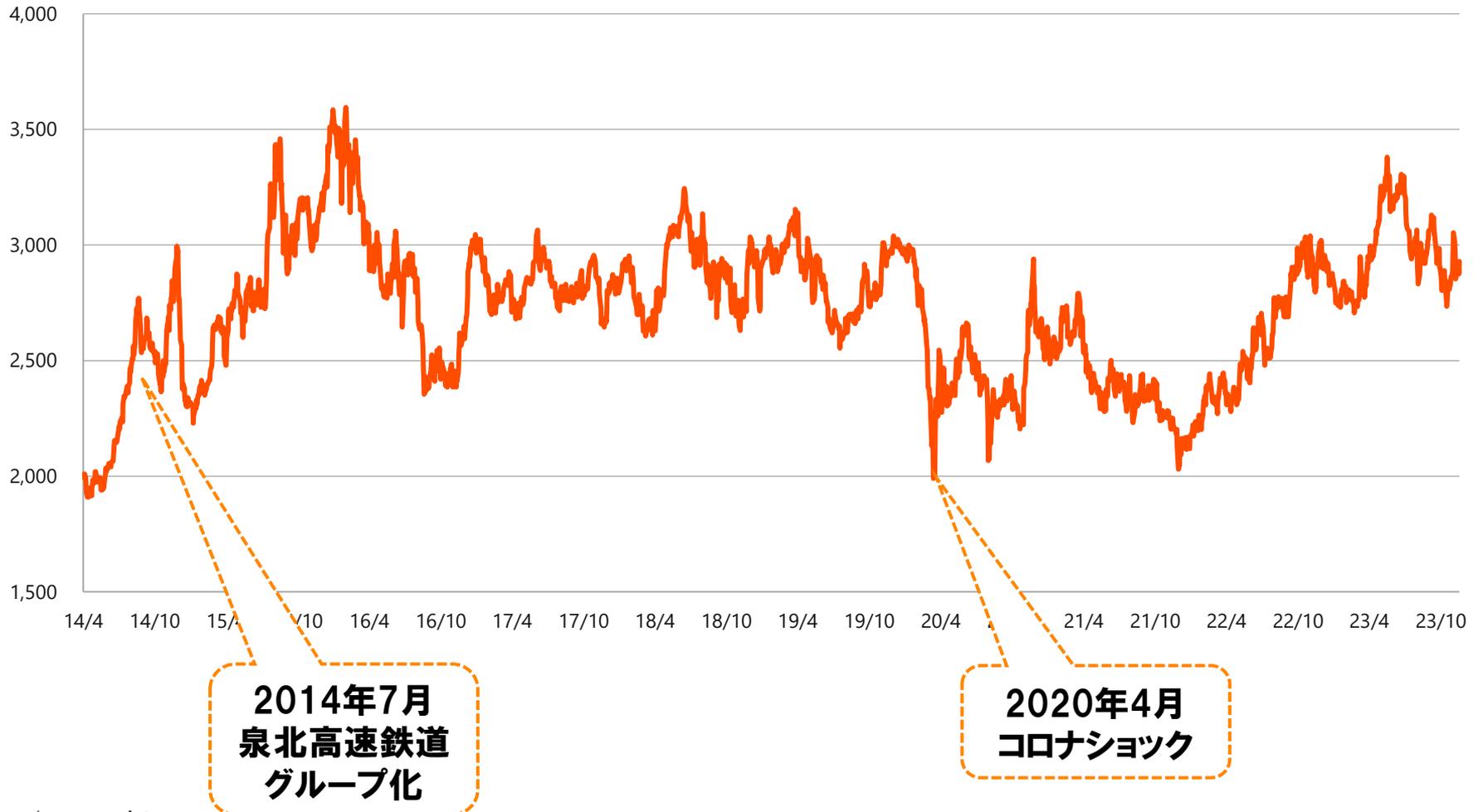
インバウンド需要の回復に加え、運賃改定の効果もあり、
中期経営計画の営業利益目標を1年前倒しで達成見込み。

運輸・不動産に次ぐ第3の柱となる事業の育成を図るとともに
関西におけるビッグプロジェクト(大阪・関西万博、大阪IR、
なにわ筋線)を契機に、新たな成長ステージへ。

VI. 当社株式について

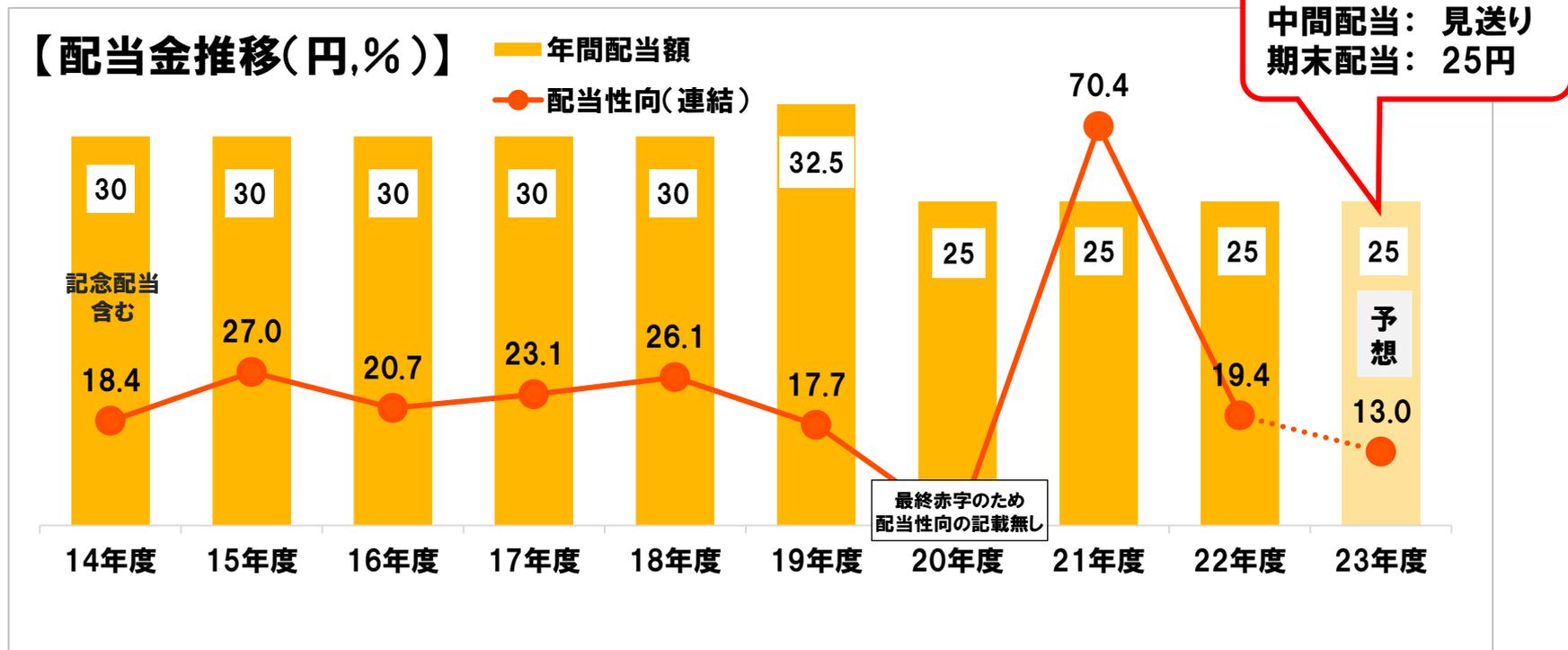
株価推移(2014年4月1日～2023年11月17日)

- 泉北高速鉄道のグループ化を契機に株価は上昇、その後は安定的に推移するも、コロナ影響で一時的に落ち込み、足元ではコロナ禍前の株価水準に回復



株主還元

- 長期にわたる安定的な経営基盤の確保と財務体質の強化に努めつつ、収益のさらなる向上を図ることにより、安定的な配当原資を確保する
- 今後も、経営環境/業績の動向/設備投資その他の投資機会等の要素を広く総合的に考慮し、安定的な配当を継続する



※2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施
 ※2017年度以前は株式併合後ベースに換算した配当額(年間)を記載

株主ご優待制度

■ 株主優待基準

3月末と9月末時点の株主さまに対し、ご所有株式数に応じて、乗車カード・定期券式乗車証等の株主ご優待証類を贈呈します

所有株式数		優待内容		
		6回乗車カード	定期券式乗車証	
				軌道・バス割引付
200株以上	1,000株未満	1枚	—	—
1,000株以上	2,000株未満	2枚	—	—
2,000株以上	4,000株未満	3枚	—	—
4,000株以上	6,160株未満	5枚	—	—
6,160株以上	10,220株未満	1枚	1枚	—
10,220株以上	40,000株未満		—	1枚
40,000株以上	100,000株未満		—	2枚
100,000株以上	200,000株未満		—	3枚
200,000株以上	2,000,000株未満		—	5枚
2,000,000株以上			—	10枚

※当社電車線全線（りんくうタウン駅～関西空港駅間を除く。）でご利用いただけます。なお、泉北高速鉄道線ではご利用いただけません。

参考：大人片道運賃 なんば～高野山 1,430円 なんば～和歌山市 970円

株主ご優待制度

当社グループ施設等を優待料金でご利用いただける「株主ご優待チケット」を贈呈します
(3月31日現在 100株以上ご所有の株主さま対象に年1回)

【対象施設の一例】

- ・ スイスホテル南海大阪(宿泊、レストラン、婚礼等)
- ・ 世界遺産 高野山(金剛峯寺、根本大塔、霊宝館等)
- ・ 大阪ゴルフクラブ
- ・ 橋本カントリークラブ
- ・ 南海フェリー

※対象施設については、変更になる可能性があります



スイスホテル南海大阪



南海フェリー



高野山 根本大塔



大阪ゴルフクラブ

当社ホームページのご案内

当社のホームページを是非ご覧ください
当社をご理解いただくための情報を掲載しております

南海 IR

検索

こちらからもアクセス可能です

IR情報：<https://www.nankai.co.jp/ir>

○株式情報



株式優待や配当に関する
情報を掲載しています

○IRライブラリー



決算資料や株主通信等を
掲載しています

○統合報告書



南海グループの持続的な
成長や価値創造の道筋、
考え方や戦略、具体的な
取り組みをお伝えします

○ひとまち未来 'なんかい' ACTION



南海グループが取り組む
サステナビリティに関する
具体的な取り組みを
掲載しています

‘なんかいね’があふれる



<IRのお問い合わせ先>

**南海電気鉄道株式会社
財務戦略グループ サステナビリティ推進部(IR担当)**

TEL :06-6644-7105

E-mail:nankai_ir@nankai.co.jp

<https://www.nankai.co.jp/>

「見通し」に関する注意事項

本資料は投資勧誘を目的とした資料ではありません。あくまでも参考資料であり、正確な決算数値等は決算短信・有価証券報告書等をご参照ください。

本資料で記述しております業績予想及び将来予想は、現時点で入手可能な情報に基づいて算定しておりますが、需要動向などの業況の変化、物価変動等、多分に不確定要素を含んでおります。そのため、実際の業績は、様々な要因の変化により業績予想と乖離する場合がありますので、ご承知おきいただきますようお願いいたします。